

Letters

Arpak

レターズアルパック

VOL.218

ISSN 2432-5295

# 気分をかえて

## C O N T E N T

### ◆【気分をかえて】…01～04

- ・油彩「深大寺」
- ・週末弾丸クルーズで気分転換
- ・1日の始まりは、朝ごはんから
- ・スケール（縮尺）をかえて  
～ミニ地球環境シミュレーター～
- ・八丈島への一人旅
- ・森でリラックス
- ・未知（の味）との遭遇

### ◆今、こんな仕事しています…05～07

- ◆arpak spirits…08
- ・国鉄吹田駅前市街地再開発ビル

### ◆新人紹介…09

### ◆近況&イベントのお知らせ…09～10

- ◆まちかど…裏表紙
- ・北海道ならではのスケール感を堪能

私たちの業界では毎年、今頃の時期から年度末に向けて業務量が増えていきます。

日々の業務に追われて余裕がなくなり、緊張感も日に日に高まっています。

別の言葉で言うと気分の高揚。そうした高揚感を楽しむという高等ワザもあるのですが、それでもたまには気分をかえたくなるもの。

今号のテーマは私たちにとってはまさに時宜を得たものなのです。

そこで今回は、遊び心のある所員に気分のかえ方について聞いてみました。どうぞご覧ください。

レターズアルパック編集委員会

# 気分をかえて



## 油彩「深大寺」

三輪泰司：名誉会長

油絵が一枚あります。サムホールです。額装していませんが、ウラに「1960年1月10日、深大寺」とあります。東京での建設技術修行中の作です。

絵画実習の講師を勤めておられた伊庭伝次郎先生の北白川のアトリエー京都二科美術研究所へ通っていたのは、1953年で、習作は何度も使い重ねます。それで、一枚も残っていないのです。レターズ前々号(216号)で披露しました1967年のアルパック・アート・コレクション

第1号の伊庭新太郎さんは、アトリエでイーゼルを並べていた仲ですが、プロの画家。今や、嵯峨美大名誉教授、二科会の大御所。では、自分の「絵」は？

まちづくり、都市づくりには欠かせないのは、場所、ロケーション。まず観察、或いは記録。その手段としてスケッチ。趣味はと問われて「絵画・園芸・登山」と答えています。でも「気分転換」でもありません。ちゃんと目的があります。画家の「絵」とは違います。描き方も違う。1メートルも離れたらとても見られない。そのかわり同じ場所の「定点観察」などがあります。パリ・歴史地区・モンマルトルの例です。その中で、唯一残っていた「絵」として描いた貴重な一枚がこれです。遠景・中景・近景、作法どおりです。ところが、やっぱり、都市づくり屋になったはずですね。題材に選んだのは調布・深大寺の



その1:1963年8月



その2:1972年10月



その3:1990年6月



その4:1995年6月

「神代植物公園」計画地。京都の梅小路公園、大阪の花の文化園を計画した時、神代緑地を想い起していました。大阪も壮大な緑地計画を建てていました。鶴見・服部……。公園・緑地も時代相を映しています。東京圏の緑地計画もどのような歴史を刻んできたでしょう。さて、このサムホール、額装してあげましょう。



## 週末弾丸クルーズで気分転換

石川聡史：都市・地域プランニンググループ



復路の早朝には明石海峡大橋をくぐります

かつて、外国で行われるサッカーワールドカップ観戦のため0泊3日弾丸ツアーが流行りました。

現地では宿泊せず、往復の飛行機を夜行便にして時間を節約する観戦ツアーです。その国内版としてフェリーを利用した弾丸クルーズというものがあると5の子どもを連れて体験してきました。

弾丸クルーズは、関西・九州を結ぶフェリー会社が企画しているもので、大阪・神戸を夜出

発して翌朝九州に到着。現地は一日自由行動で、その日の夜に帰りの便に乗り、翌朝帰ってくるものです。

金曜の夜、会社近くで子どもと合流し、大阪メトロで大阪南港へ。フェリー「さんふらわあ」に乗り込み、朝起きるともう別府です。今回の観光場所は子ども向けのもので、車を借りるとアフリカンサファリ、別府定番の温泉・地獄巡り、昼食を挟んで水族館、高崎山のサル見物……と予定していたスケジュールをこなしていくと、あっという間に1日が終わりました。

せっかく九州まで行くのに遊べるのが1日だけなので、少しもったいない気もしますが、バスや飛行機と違いベッドで眠れることから疲れもあまり出ず、普段の気軽転換には最適だと感じました。景色を見ながらの船内での食事や入浴は、普段は味わえない非日常を感じることもできます。

弾丸クルーズは今回の別府行きのほか鹿児島行きもあるということなので、今度はそれに乗り、桜島や九州最南端の佐多岬に行ってみたいと思っています。

## 1日の始まりは、朝ごはんから

植松陽子：サスティナビリティマネジメントグループ

子育て中のご家庭ならどこも一緒かと思いますが、小・中学生の娘を持つ我が家もご多分に漏れず、平日の朝はバタバタと忙しく1分も無駄にはできません。

そこで我が家の朝ごはんは、簡単に用意ができ、洗い物が少なく、栄養もそれなりに……と食パンに、ウインナーやチーズ、フルーツ、ヨーグルトなどが定番のメニューです。栄養プラスで名古屋名物・小倉もオプションで。5分で作れ、10分かかずに食べる、そんな毎日の朝を過ごしています。

でも、休みの朝は、少しだけゆっくり起きて少しだけ豪華に。たまにはホットケーキも焼いたりしますが、本当はそう！

気分をかえて、モーニングに行きたいのです。

私が住んでいる愛知・岐阜あたりには昔から喫茶文化が根付いています。名古屋の世帯あたりの年間喫茶代は14,301円と、全国平均5,770円を大きく上回り、県庁所在市・政令市の中で全国第1位となっています。まちには昔ながらの喫茶店やチェーン店などが点



メニューで食べられるプラス200円代ドリンク

在し、どこの店も平日・休日関係なく朝早くから常連客で賑わい、サラリーマンだけでなく、近所の主婦やお年寄りなど地域の人たちのコミュニケーションの場にもなっています。

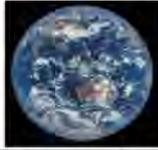
ドリンクを頼むとトーストやゆで卵、サラダなどが無料で付く「モーニング」は全国的にも知られるところでしょう。休日は家族でモーニングに行き、ゆっくりと時間を過ごす人達も多くいます。モーニングの内容は多種多様で、茶わん蒸しやおにぎりなど、コーヒーに合うのか？というメニューまでつける店もあります。

私も、子どもが小さい頃は、休日の朝にゆっくりモーニングに行くこともありましたが、最近は休日でも朝から忙しくなかなか行く機会が減りました。とはいえ、朝一番から、平日の居残り家事に向き合わなければならぬ現実から抜け出すには、やはり喫茶店でモーニングを食べながら過ごすのが一番です。



テーブル上の小倉は乗せ放題

## ミニ地球環境シミュレーター



ミニ地球

### ミニ地球のサイズの計算

地球のサイズ	半径	値	
	極半径	6,357 km	
	赤道半径	6,378 km	
地球の体積	体積	1.08 兆km <sup>3</sup>	
	表面積	5.10 億km <sup>2</sup>	
	成層圏の高さ(オゾン層まで)	50 km	
	大気圏の体積の近似値(表面積×成層圏高さ)	255 億km <sup>3</sup>	
成層圏高さ/平均半径		0.001963	
講演会場のサイズ	座	入力欄	20 m
	横	入力欄	20 m
	高さ	入力欄	5 m
	室内空気体積		2,000 m <sup>3</sup>
ミニ地球のサイズ	半径をr、成層圏高さをhm、気圧が高さに比例し、成層圏高さで0になると仮定するとまた地球とミニ地球の半径と成層圏高さの比率は同じのため	$4\pi r^2 \times h =$	4,000 m <sup>3</sup>
		$h/r =$	0.001963
	上の2式から方程式を解くと	$r^3 =$	162,229 m <sup>3</sup>
	ミニ地球の半径	$r =$	55 m
	ミニ地球の成層圏高さ	$h =$	10.7 cm

### ミニ地球の年間二酸化炭素排出量の計算

地球の二酸化炭素排出量(2016年)	323 億t
二酸化炭素の重さと体積の換算比(0℃, 1気圧)	0.509 リットル/g
ミニ地球の二酸化炭素排出量 重量	5.07 g
ミニ地球の二酸化炭素排出量 体積	2.58 リットル
灯油燃焼で換算すると	12.6 cc

## スケール(縮尺)をかえて ～ミニ地球環境シミュレーター～

松本明：京都事務所長

だいぶ前、総合計画の講演会で講師の先生が「二酸化炭素の年間排出量が320億トンを超える」と地球環境問題の重要性を強調されていましたが、なかなか実感がわかず、ふと、「この部屋の体積を地球の大気量に置き換えてシミュレートしたらピンと来るかも」と妄想しながら話を聞いていましたが、この機会に作ってみました。

計算は単純で、大気の体積と部屋の体積の比を求め、地球全体の二酸化炭素排出量にその比を乗じてやれば、「ミニ地球」の二酸化炭素排出量が計算されます。講堂は縦横20メートル、天井高さは5メートルほどだったので、これをシミュレーターに入力すると、ミニ地球の半径は55メートル、大気圏高さは10.7センチメートル

(層圏)は10・7センチメートルになりました。大気は薄皮ですね。また、二酸化炭素の年間排出量は5・07グラムで体積にして2・58リットル。灯油燃焼量に換算すると12・6ccという結果です。

これをどう見るのか。①そんなに少ない(多い?)はずないので恐らく計算式が間違っている。②こんなに少ないのだから二酸化炭素温暖化原因説は誤りでは。③こんな少ないのに影響が出るのは地球環境はなんてデリケート。④何十年積もり積もれば影響が出て当然。⑤ピンとこない。などなど。私自身、まだ①の可能性も拭いきれません。皆さんいかがでしょう。

ところで、20年ほど前、「世界がもし100人の村だったら」という話題がありました。アメリカのドネラ・メドウスさんのアイデアで、このシミュレーターの思い付きの種です。ちなみに彼女はローマクラブの「成長の限界」の主筆の一人で、グローバルな問題をどうとらえ、どう伝えるかに心血を注いだ人だと思えます。スケール(縮尺)をかえようと気分や見え方が変わるかもしれませんが。関心のある方、お待ちしております。ソフトもお送りします。

## 八丈島への一人旅

増見康平：建築プランニングデザイングループ



皆さん、気分転換の方法はお持ちでしょうか？

私のお勧めの気分転換の方法は、自然を感じることにおいしいご飯を食べることです。ここで重要なポイントは一人で行動すること、難しいことは何も考えないということです。自然や料理に一心に没頭することで、頭と心をよりリフレッシュできると思います。

普段の気分転換方法は、芝に寝転がり、芝を肌で感じ、芝のにおいを感じながら数時間空を眺めた後、ラーメンを食べに行くことですが、この夏は、東京の八丈島に足を運びました。

八丈島は、八丈富士と三原山から成るひょうたん型の島で、ヘゴシダの群生や牧場、溶岩台地の海岸と自然を感じられるスポットが多くありました。なかでも長時間過ごしたのは「裏見



の滝」で、その名は滝を裏側から見るという珍しい景観に由来しているそうです。滝の裏側という場所の薄暗さ、滝のバックに見えるヘゴシダの群生、薄暗さに差し込む木漏れ日を作り出す風景は、まるで恐竜でも出てくるかのような太古の自然を思わせました。

八丈島は、特産品が豊富で、くさやや明日葉、焼酎、島寿司などがあります。印象的だったのが島寿司です。島で揚げられるメダイと黒ムツの醤油漬はわさびの代わりに練りからしが使われるという意外性、また、岩海苔の握りは、とてもよい磯の香りと少し噛み応えのある触感が新しい発見でした。

今回は1泊2日の短い時間だったため、あまりのんびりできませんでしたが、次回はより島を満喫できるように1週間くらい滞在してみたいです。

## 森でリラックス

依藤光代：都市・地域プランニンググループ



息子たちと、週末に「ブレイパーク」に出かけます。於大公園（愛知県東浦町）の片隅に残った雑木林で週末に開催されていて、私たちは「森にいこう！」を合言葉に出かけていきます。

森には、斜面を利用して竹でつくった滑り台、木にくくりつけたブランコやハンモック、夏は水を流してウォータースライダーと、手作りの遊び環境がたくさん。遊びのプロであるおじさん・おばさんもいて、自然の中での遊び方にアドバイスももらえます。

焚き火もできます。火をおこす体験はこどもの学びにつながると言われていて、焚き火をしてはソーセイジやパンをあぶって食べます。火起こしが上手な大人を見ると感心してしまうの



で、いまは私自身が焚き火に夢中になっています。

おもしろいのが、「子どもを叱らないで見守る」というルールです。2歳と4歳の息子たちは、ともかくなんでも触りたいし、走り回りジャンプしたいし、所かまわず大声を出したい年頃です。日常の環境では、してはいけないことがたくさんあり、周りの大人の目も厳しく、「保護者」として叱らないといけない場面がたくさんあります。でも森の中では、迷惑をかける心配も少なく、車にぶつかる危険もなく、転んでも土だし、私自身も心配から解放されリラックスして過ごすことができます。木漏れ日、土や焚き火の匂い、木のざわめきとそよ風、大きな虫。五感を使って過ごします。子どもがなにかを発見する瞬間を、私が見つけこどもの成長を実感するという、貴重な時間になっています。

## 未知（の味）との遭遇

遠藤真森：地域産業イノベーショングループ



桜島大根①の区画



8月24日（播種）

9月12日

10月5日

いつかやると決めていた、種子からの野菜栽培に取り組んでいます。

私の家には残念ながら野菜を十分に栽培できるようなスペースはありません。滋賀県のある知人宅で、畑1区画の栽培作物を自由に決めさせていただき、種子から栽培をしています。

どの作物も大事に思って栽培していますが、一際思い入れがあるのが桜島大根。3月に友人と九州南部に旅行に行った際に

桜島で種子を購入しました。今はみな遠く離れてしまい中々集まれません。収穫できたら集まって食べようと約束していましたが、果たして滋賀県で育つのかと心配でしたが、種まき後はすぐに芽が出て、成長し、一本立ちしました。このまま順調にいくかと思いきや、虫害により数を減らし、元気な株は7株中2株。何とか収穫までできればと思っています。

ちなみに、一般的に食べられている作物のほとんどはF1種ですが、ここで栽培しているのはサツマイモとマリーゴールドを除き、全て固定種です。F1種と固定種の説明はここでは省きますが（興味のある方は調べてみて下さい）、固定種の作物は味が濃かったり深みがあったりするものが多く、おもしろいです。いつも食べているものと同じ品目なのに、感じたことのない味がしたりします。実際、収穫したわさび菜は食べたことがないほど辛いわさび菜でした。

味の違いをふと感じたとき、新しい味を知ったとき、気分が変わっていることはありませんか。体を動かして自然を感じながら農作業することも良い気分転換になりますが、未知の味との遭遇もまた格別です。

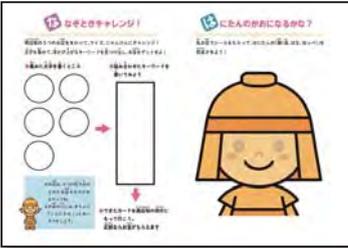
今、こんな仕事をしています

高田剛司：

地域産業イノベーショングループ



## 商店街に新たな客層を呼び込む試み ～「はにたん」をフル活用！～



「はにたん」のゆるキャラ、

芥川商店街は駅からすぐの立地条件にあり、昔からのお店が軒を連ねる「人情味」の残る商店街です。しかし、買い物客の高齢化が進み、周辺に新規マンションが増えているにも関わらず、アーケードの下を多くの自転車が行き交う「素通り」商店街になっています。

そこで、昨年度はこれまで商店街が実施してきた「日之出町土曜日」という手作り市の機会に合わせて、小学生の子どもたちが「謎解きラリー」をしながらお店を巡る取組を企画しました。次いで今年度は、1日だけの試みを発展させて3ヶ月間に延ばし、「かくれんぼスタンプラリー」を企画しました。前回の参加者は小さいお子さんが多かったことを踏まえ、対象を小学校3年生以下とし、幼稚園・保育園にもマップを配って、小さいお子さんとその親がお店をまわられる仕掛けを試行しました。ポイント、高槻市の子どもたちにとつて絶対的アイドルの「はにたん」



をマップや景品、掲示物に最大限活用したことです。

その結果、多くの親子による参加を得ることが出来ました。参加者は必ず協力店の店内に入って店主や店員とコミュニケーションを取らなければならぬ仕組みになっているため、若い親子には商店街のお店を知るきっかけに、お店の方は「将来のお客さん」との会話のやり取りを生み出す場となりました。まちおこしとして一世を風靡した「ゆるキャラ」は、時にブーム的なものとして冷やかかなコメントも聞きます。しかし、今回の「はにたん」人気を目の当たりにすると、特に若い親子をお客さんとして新規に獲得したい商店街にとって、活用しない手はない大変有効なツールであることを認識した事業となりました。

## 企業主導型保育所+αの子育て拠点が開園しました

三浦健史：

建築プランニング・デザイングループ



エントランス：放課後、英語教室等に小学生たちが来ます

本園は元スーパリーのテナントを

企業主導型保育所は初めて開園したので、簡単にご紹介を。企業主導型保育事業は、待機児童解消加速のために平成28年度に内閣府が開始した事業です。認可保育所との違いは多くあります。まず助成金は自治体からでなく国から出ます。また「企業」にフォーカスしており、企業が直接設置することもできます。なお本園は保育事業者設置型で複数企業と利用契約を締結し地域枠を含む形態のため、

企業主導型保育所「こぐま松尾キッズクラブ」(京都市西京区)がオープンして約4ヶ月になりました。社会福祉法人熊千代会は京都市西京区のごま上野保育園など京都市内で3か所の認可保育園を運営されています。このたび新たに乳児保育園を企業主導型保育所として開園され、アルパックは設計監理のお手伝いを行いました。

改修(用途変更)したものです。施設計画に当たっては、施設が新設となるため、道路や周辺との関わりにおいて顔の見える親しみやすさをつくることに最も配慮しました。道路に面して保育室とデッキの園庭を設けるなど、園の雰囲気は伝わるようにしています。

用途としては企業主導型保育所の乳児保育園の他に、バレエ教室や体操教室に使うスタジオ、英会話教室や学習スペース等を併設しています。小学校の向かいという立地を活かし放課後の子ども・地域のニーズに配慮するような様々な試みを模索されているところです。

幼児教育・保育の無償化が始まるなど、取り巻く制度は頻繁に変わりますが、本園が松尾地域の新たな子育ての拠点となることを願っています。



乳児保育室：ゆったりした空間で一日を過ごします

# 宍粟市山崎地区の歴史的景観を活かしたまちづくり

岡本壮平：

都市・地域プランニンググループ



カフェを併設する酒蔵が地区イメージを牽引（景観重要建造物）



町家を改修した町家ホテルが新たな観光需要を掘り起こす

山崎地区では、これまでも歴史的な建築物等を指定して保全を図ることができず、

「歴史的景観形成地区」の指定を受けて、地元主体の景観まちづくりを支援・推進しているところと見られます。地区指定を契機に、景観まちづくりの考え方がさらに普及し、歴史と観光と日々の暮らしが調和した山崎らしい景観まちづくりが展開されることに期待しています。

難読地名で知られる宍粟市は、兵庫県の中西部、兵庫・岡山・鳥取の3県境に位置する人口約2.7万人の中山間・山間都市で、豊かな自然に恵まれた町で、農業を基幹産業として発展してきました。

特に「森林王国」としてPR



5月の藤祭りでは商店街一帯が賑わいをみせる

# 住み慣れたまちに住み続けられる暮らしに向けて・・・ ごちゃまぜの地域づくり活動拠点

戸田幸典：

地域再生デザイングループ



オープニングイベントの様子

市民1人ひとりの個性や多様性が尊重され、市民が主体となつたまちづくりを支援する「丹波市市民プラザ」（丹波市市民活動支援センター・男女共同参画センター・氷上子育て学習センター）が10月22日、丹波ゆめタウン2階にオープンしました。

プラザは丹波ゆめタウンの運営事業者である（株）タンバンベルグが整備し、市が借り上げる形で整備された施設で、アルパックは昨年度から支援人材育成事業に携わり、今年度から市民活動支援センター開設準備と運営業務を担っています（2020年度末まで）。

20日にはオープニングイベントを開催、市内25地区の自治組織や市民活動団体の活動展示をはじめ、高校生のライブ、まちづくりゲーム、絵本の読み聞かせなどを実施しました。イベントには、500人を超える市民の皆さんにご来場いただき、老



たくさんの人で賑わう会場

若男女・サークル活動から自治活動・市民活動・コミュニケーションまで、プラザのコンセプトである「ごちゃまぜ」を体感できる時間となりました。

市民活動支援センターはまちづくりビジョンの柱の1つである「住み慣れたまちに、住み続けられる暮らし・地域づくり」と「みんなのでつくり、育てていく、みんなのセンター」をコンセプトとし、地元スタッフとアルバイトの5人が、市担当課と連携しながら、これから情報収集・発信、地域自治組織の支援に本格的に取り組んでいきます。



市民活動支援センタースタッフの5人

## 商業エリアのリ・ブランディングセミナーを開催しました。

絹原一寛：

都市・地域プランニンググループ



八幡屋エリアのセミナーの様子

昨年度より、「商店街等エリア魅力向上事業」で、空き店舗増加、活力衰退に悩む商業エリアの支援に取り組んでおり、今年度は柏原市の国分西エリア、大阪市港区の八幡屋エリアを支援しています。

地元の方と練り上げたり、ブランディングの戦略をご披露し、あわせてエリアの価値向上に取り組む実践者を招いたセミナーを開催しました。

国分西では、枚方を拠点に空き店舗等を活用し暮らしを楽しむとする仕掛け人、宮地なおみさんをお招きし、万人うけさせな

いインパクトのあるまちづくりを講演頂きました。「やるなら今、スピードとタイミングを大事に」という言葉に、地元メンバーも一歩踏み出す勇氣をもたらしたようでした。

八幡屋では、阿倍野・昭和町で不動産を通じてエリアの価値向上に取り組む丸順不動産株式会社の小山隆輝さんを招き、個別の物件ではなくエリアで取り組む重要性、良き商いを守り育てるムーブメント「バイロカール」をご紹介頂きました。「商店街の中にも昔ながらの乾物屋が残っているのも八幡屋エリアの価値の一つ」とお話があり、エリアのこれからの可能性に期待が持てる内容でした。

両エリアとも、どの方向で取り組んで行くかは定まりつつあり、後は誰とどう実践するかです。

アルパックホームページに特設サイトを開設していますので、今後の動向はそちらもご参考して下さい。

※この業務は、地域再生デザイングループの羽田、竹内、地域産業イノベーショングループの山部も担当しています。



## 社会実験 IBALAB plus がスタートしています

羽田拓也：

地域再生デザイングループ



茨木市市民会館跡地を使ったまちの魅力づくりや暮らしの質の向上をめざして、社会実験 IBALAB を実施しましたが、今年度は中心市街地エリアに範囲を拡大して取り組んでいます。

茨木市の中心市街地は、JRと阪急の駅間の約1.3キロメートル、そのちょうど中間に市役所等の機能が立地しています。

昨年度の取組み以外にも、これまで各駅前や市役所周辺ではまちを楽しむ様々なイベントや賑わいづくりが行われ、まちの魅力や賑わい空間が創られてきました。

今年度は、その拠点をつなぐエリアなどまちなか全体に焦点を当て、まちなかを使ってまちの価値を高め、まちを魅力的にする取組みを社会実験として実践してみることにしています。取組み内容については市民の皆さんとワークショップを通して検討しています。

ワークショップでは、まず参

加者の皆さんとまち歩きを行い、まちなかを魅力的にする「まちなかスポット」として、公共空間だけでなく、お店の店先などの民有地なども含め約60か所を探し出しました。

次に、その中から自分たちが思い描くまちを魅力的にする取組みができたら良いと思う場所をピックアップし、取組み内容を検討しました。その結果8つのプロジェクトが立ち上がりました。沿道の店舗等の軒先を借りてのひと箱市や、元茨木川緑地での「いもやき」、商店街の一角に芝生広場を設置し夜市開催など、社会実験 IBALAB plus として11月8日から24日までの16日間に各所で行っていきま

す。まちなかでの様子がどうなったか、などについては、次号以降で改めてご報告できればと思っております。



まちなかスポットを使った取組みの検討

※アルパック歴の浅い職員が、アルパックのエポックとなったプロジェクトの現場を創業者の三輪泰司と共に訪れてアルパック・スピリッツに触れ、その一端を三輪自身の言葉とともにみなさんにご紹介します。

「医者が、医療技術だけでは済まないように、都市プランナーは、都市計画技術だけでは済まない」

国鉄吹田駅前市街地再開発は、1969年に始まり、完成までに10年の歳月を要しました。吹田との縁は、万博でした。ジモト「健康の森」グループの支援と協働のためのもので、当時は都市再開発法が出来て間もない頃であり、アルパックが創業して3〜4年で、初めて取り組む再開発事業でした。三輪は、再開発法制定前にアクションを始めていました。東京の建設省まで行って担当官に夜までかかって教わりました。当時40歳です。可愛げがあったのかもしれない。

吹田駅前再開発は、JV（ジョイントベンチャー）ではなく、単独で受託し、権利変換計画から設計・監理業務までフルコースだったそうです。単独と言えども、様々なネットワークを動員し、地元への支援を受け、事業主体である吹田市の市長、担当部長を始め、協働して取り組みました。もちろんビッグプロジェクトですから、アルパックの所員の大半が関わることになりました。さらにプロジェクト遂行には、「都市計画」と「建築」の専門技術が必要不可欠でした。大変な事業でしたが、三輪が猛勉強した経験と両分野の技術者がいたので対応できました。

まちづくりは都市計画技術だけではできません。目的に応じてプラスアルファがあり、再開発のプラスアルファとは何か、と三輪から聞き手の参加者へ問いかけがありました。

土地区画整理事業は面的（2次元）、市街地再開発事業は立体的（3次元）であり、権利調整が3乗になる、即ち、再開発におけるプラスアルファは、交渉力であるとのこと。国鉄吹田駅前市街地再開発における店舗や住宅等の権利者は200以上もあり、それに伴う権利返還の交渉も大変だったそうです。

一方でキーテナント（核店舗）の交渉も重要で三輪は、度胸と粘りで阪神百貨店の本社に乗り込み、交渉に臨んだようです。紆余曲折あり残念ながら最終的にテナント誘致には至りませんでした。次に交渉に向かったのが、当時、吹田市の江坂に本社があったダイエーでした。交渉の末、テナント誘致にこぎつけましたが、百貨店とスーパーマーケットでは扱う物資が異なり、百貨店の搬入動線では、大型トレーラーが回転できないため、設計変更が発生したとのことでした。再開発事業を一手に引き受けていたため、随時、設計変更を行うことで、追加工事が発生しないようにすることが可能でした。

また、徳島県郷土文化会館（設計 西山卯三先生）の現場から戻ってきた倉本（当時30歳）も権利変換の交渉に加わり、夜中でも訪ねて話をしたそうです。

「都市プランナーと建築デザインのチームプレーもラグビーのプレーと同じです。」

再開発は、建築法規、権利調査、従前・従後評価からプレゼンテーションまで、様々な技術・能力が要求されます。対外（建設省、事業主体、

テナント候補）交渉から対内（グループ、チーム等）統括まで、それぞれに役割・個性があり、三輪は、まるでラグビーチームのようだと言っていました。建築屋と都市計画屋が一緒になって事業を進める必要があり、国鉄吹田駅前再開発では一緒にやったが、建築はコンペか設計事務所所に頼むことにより、アルパックは得意な都市計画分野に注力することができるとも言っていました。

倉本からは、地区外移転権利者と市とペアでの交渉や、権利者が住む藤白台住宅の設計について説明がありました。藤白台住宅は、その後も改修などをお手伝いしています。当時、権利者同士でできた独自の「自治」は、今日も機能しているそうです。

一つの事業が完成するまでに10年以上かかります。行政の技術者も複数のプロジェクトに関わる機会はなかなかありません。アルパックのコンサルタントならではの経験と技術の蓄積は、その後の京都駅南口、山科駅前、尼崎駅、蒲郡等の再開発事業への受託につながることになります。

「地元での地域情報が重要である」

地元の居酒屋に行けば、地域情報が分かるそうです。ある時、計画地一帯で戦時中に爆撃があった話を聞いた三輪は、建築設計の仕様書に不発弾処理の内容を盛り込んだところ、工事中に不発弾が2回出てきたとのことでした。

「吹田の再開発事業の経験は、その後アルパックの経営戦略を決めた」

事業を推進していくうちに、二つのことを学びました。一つは、テナ

ント、地権者の増床への融資など、吹田の地権者は主に、飲食・物販業でした。まちづくりとは、中小企業支援だと判りました。二つ目は、アルパック1社だけでフルコース受託は問題でした。技術力が大きく割かれます。建築事務所との協働と、以後コンペによる選定と運営に力を注ぎました。

「40周年を迎えた現在の再開発ビル（吹田さんくす）を見学」

現地視察では吹田さんくす1番館、2番館、3番館を吹田市開発ビル株式会社の高田さんにご案内いただきました。テナントがダイエーからイオンに変わり、耐震改修がされたりと、竣工当時とは少しずつ姿を変えていきながらも、施設内は、地元の良いお客で賑わっていました。駅前広場も昔は、広場の中に道路が通り、ロータリーの形も現在とは違っていたそうです。吹田さんくすが、今後多くの人で賑わってほしいです。

## [arpak と国鉄吹田駅前市街地再開発]

1969年から10年掛かりのプロジェクトだった国鉄吹田駅前市街地再開発。都市再開発法ができて4年、権利変換計画、キーテナント交渉、再開発コーディネーターから設計・監理業務まで、アルパックは事業主体である吹田市と協働に関わりました。現在は、3番館の耐震改修設計・監理や2番館の店舗改修設計・監理他をお手伝いしています。



## 新人紹介



豊福宏光  
サステイナビリティ・マネジメントグループ

### 7 地域の匂い

7 月末からインターンシップでお世話になり、10月から大阪事務所サステイナビリティ・マネジメントグループに配属になりました豊福宏光です。山口県下関市出身で、高校は北九州市の門司に通い、大学を期に大阪に、その後就職で関東に住んでいました。この度、採用されれば、懐かしいような、騒がしくもあり、それでいて街が寛容なような不思議な気持ちで大阪ライフを過ごしています。下関出身の私が就職で関東に渡り、その後西東京や横浜に住み、長期出張で香川県、新潟県や長野県、石川県などに滞在する中で、感覚的にですが西日本と東日本はど

こか空気が異なるなど感じています。各地域は気候も文化も食べ物も違うので、そう感じるのは当たり前なのかもしれませんが、個人的に一番違いを感じ取れるのはその土地に降り立った瞬間の匂いです。その度に新しく新鮮な気持ちになれるような気がします。

前置きが長くなりましたが、私は学生時代はテキストと版画を学び、その後仕事で広告業界や繊維業界を経て、前職では美術業界で主に地域のアートプロジェクトに携わってきました。各地域のすばらしさや人との出会いの中で、美術という側面からだけでなく、より広く、また実社会に身近な事象に近い所で仕事をしたいと思うようになりアルパックに挑戦させていただきました。

インターンシップでは真庭SDG事業やごみ調査などを経験させていただきました。身近な課題を柔軟かつ多角的に取り組めると思いました。そういう経験を通して、自分自身も日々の生活の中で今まで当たり前だと思っていたことを改めて調べてみたり、新たな気づきや発見が多く、とても充実した日々を過ごしています。違うフィールドからの転身でこれからお世話になるので、日々勉強をさせていただき一日でも早く会社と会社に貢献できるよう頑張っていきますのでどうぞよろしくお願います。

## 第17回適塾路地奥サロン「ベトナムでのプロジェクトから見る海外進出支援のあり方」を開催しました。

ホアンゴックチャン  
適塾路地奥サロン実行委員

先日、「ベトナムでのプロジェクトから見る海外進出支援のあり方」と題して、大阪府の領家誠さんにお話し頂きました。

近年、ベトナムは日本企業の海外生産拠点として注目を集めています。その背景には、ベトナム国内市場の今後の成長性や優秀な人材が期待できること等があるでしょう。しかし、進出した企業に聞くと、管理職クラスの人材確保には中々苦戦される様子を伺っています。

一方、企業の海外進出のサポーター役を担っている日本国内の地方自治体は、今まで①相談②セミナー開催③海外現地ミッション④海外でのビジネスマッチング⑤現地サポート拠点の整備等支援策として取り組んでいます。いわゆる進出前から進出時までのサポートとなり、進出後の支援取組が充実されていないようです。

領家さんは、大阪府が提案した「ベトナム国ドンナイ省におけるものづくり人材育成事業」の専門家として2014年からプロジェクトに参加されました。この事業は「ドンナイ省のモデル校において、日系企業の

ニーズに対応した教育カリキュラムを適切に、かつ継続的に指導できる体制を構築」を目標として掲げています。まさに、日系企業の進出後の課題であるテクニシャンクラスの人材確保に繋がる新たな進出支援の取組となっています。当事業は、JICA や近畿経済産業局の協力を得て、今も継続され、現地の人々から好評のようです。

今回の適塾路地奥サロンには、ベトナム商務担当領事や、現地に事業を展開されている経営者等、ベトナム関係者が多く集まり、ベトナムの人材育成等を巡って、大いに盛り上がりました。



受賞  
しました

## 近況 & イベントのお知らせ

橋本晋輔

都市・地域プランニンググループ

### ワクワクする船場コンペ

大阪事務所がある船場は、商人のまち大阪の古くからの中心です。近年、マンションやホテルが増加し、まちが変わろうとしています。将来の大阪のめざすべき都心の姿はどのようなものなのか、2030年でも「ワクワクできる船場」とはどのようなまちなのかを提案するコンペがあり、提案したところ、「大阪ガス賞」をいただくことができました。

私たちの提案は、ここで働くワーカーとして、「働く」に焦点を当てています。船場はかつて「働く場」でありながら「暮らしの場」でもありました。しかし、今は朝オフィスビルに入ると、夕方まで出てこず、「船場で過ごす」という意識は低くなっています。どこでも仕事ができるような時代が訪れようとしている中で、「働く」だけでなく、船場で時を過ごす人が、チャレンジができ、成長できるような船場が「ワクワクできる」と考え提案しました。

具体的な提案は多岐にわたるので、詳しくは船場倶楽部のHPにある作品を見ていただきたいのですが、「チャレンジを育てる仕掛け」と「人のつながりや知識など、豊かな仕入れができる仕掛け」を、オフィスの空き机やまちなかの空地などの「余白」を活用

してつくっていかうという提案になっています。

私たちはワクワクできる船場を「働く」の視点で検討しましたが、まちなかで働くことの意義は、船場以外のオフィス街でもこれから求められるようになると思います。まちに人が集まって働く意義とは何か、特に考えていく必要がある時代が訪れようとしているのだということを感じました。

※提案者は、羽田拓也、塗師木伸介、中川貴美子、絹原一寛、橋本晋輔の5名。作品は、船場倶楽部 船場2030 コンペ HP でご覧いただけます。

<https://sembacompe.net/>



## 令和元年度全社研修会『アルパック中期ビジョン

～自身とアソシエイトとしてのビジョン』を開催しました 全社研修等研修委員会

さる9月14日全社研修会を開催しました。今年度は、来年春に向け検討を進めている中期ビジョンについて全社的に議論する場として『自身とアソシエイトとしてのビジョン』をテーマに、京都で開催しました。午前中は、クリストファー・アレグザンダー氏とご一緒され、パタンランゲージやティール組織について多くの著書・翻訳も出されている中埜博氏に『「未来」は、すべて現在に隠されているーパタン・ランゲージから「ティール組織」までー』



と題してご講演いただき、意見交換をしました。午後は、中埜氏に進行いただきながらグループワークで「自分自身のビジョンをどう描くか」、「アソシエイトとしてのビジョンをどう描くか」について議論を深め、10年勤続表彰及びアルパック賞表彰、懇親会で交流を深めました。



# 北海道ならではのスケール感を堪能

都市・地域プランニンググループで、11月に3班に分かれ北海道の道東、道北、道央視察に行きました。

松下藍子・橋本晋輔・稲垣和哉：  
都市・地域プランニンググループ

北海道2泊3日間の旅で小樽、余市、平取、夕張、札幌と巡りました。その一つ、平取町の沙流川流域は、北海道唯一の重要な文化的景観であり行ってみたら違ったところでした。アイヌの伝統文化が残る場所であり、集落は残念ながら現存しませんが、復元されたチセ（家）やプ（倉）があります。森林はアイヌの生活の源であり、その里山景観と精神文化にまつわる数々の伝承地が残っています。アイヌの人々は、厳しい自然に暮らす中で、様々なところに精神的な拠り所を見出していったようです。北海道はあらゆるもののスケールが大きく、アイヌの人々の暮らした沙流川と里山の雄大な風景に圧倒されました。（松下）



復元されたアイヌの集落



旭川平和通買物公園

私たちの班は富良野→旭川に行ってきました。旭川市は人口約34万人の北海道第二の都市です。旭川視察の目的は、全国初の恒久的な歩行者専用道路「旭川平和通買物公園」。JR旭川駅から約1キロメートル続くメインストリートで、広幅員の歩行者専用道路の沿道には、商業・サービス施設が立ち並んでいます。

当日は、平日にも関わらず、駅の近くのエリアでは多くの人が通りを歩いており、車社会・旭川での意外な光景に驚きました。しかし、その理由も少し歩いてみると納得。通りを歩く人の多くが、駅前のショッピングモールに吸い込まれていくのです。買物公園沿道の商業施設も、チェーンの飲食店やドラッグストア、100均ショップなどが印象に残りました。地元の人に聞くと若い人は、旭川ではなく、札幌まで買物に出ることが多いそうです。

ただ、中心市街地すべてがそのような状況ではなく、買物公園を少し外れると多数の飲食店がひしめく繁華街が広がっています。夜のまちをみて、北海道第二の都市の勢いが垣間見え少し安心しました。（橋本）

訪れたのが11月ということもあり、完全にオフシーズンの釧路・網走は、観光客も少なく、ある意味で

素のまちの姿を見ることができるといタイミングでした。

個人的なハイライトは釧路湿原です。普段の生活ではなかなか感じることはないスケールでした。視界を遮るものは何もなく、はるか遠くまでずっと湿原が広がっており、そんな景色を目の前にすると、否が応でも自身の小ささを感じざるを得ませんでした。

釧路から網走は、鉄道の旅でした。1両編成の年季の入った車両に乗り、各駅に停車しながらゆっくり湿原、森、畑を抜けていきます。車窓からの景色はとも北海道らしいもので、エゾシカやタンチョウヅルも見ることが出来ました。4時間という長い移動でしたが、旅の風情を感じながらのんびり過ごしました。

旅の目的も手段も時代によって大きく変わります。かつて鉄道や車により長距離を短時間で移動できるようになったことについて、「こんなものは旅といえない」と批判する人も多かったそうです。今回の旅もいざればオールドタイプなものになるかもしれませんが、どのような形になるかは分かりませんが、再び訪れたいと思える、旅の口マンを感じさせてくれる場所でした。（稲垣）



ずっと続く湿原

表紙写真：網走本線は釧路湿原を通り抜けて釧路から網走へと向かう／撮影 坂井信行

「レターズアルパック」は、ホームページからもご覧いただけます。



アルパック (株) 地域計画建築研究所

Architects, Regional Planners & Associates, Kyoto  
https://www.arpak.co.jp E-mail: info@arpak.co.jp

本社・

京都事務所 〒600-8007 京都市下京区四條通高倉西入立売西町82 TEL(075)221-5132 FAX(075)256-1764

大阪事務所 〒541-0042 大阪市中央区今橋3-1-7 日本生命今橋ビル10F TEL(06)6205-3600 FAX(06)6205-3601

名古屋事務所 〒450-0003 名古屋市中村区名駅南1-27-2 日本生命笹島ビル17F TEL(052)462-1030 FAX(052)462-1061

東京事務所 〒101-0047 東京都千代田区内神田1-15-7 ユニゾ内神田1丁目ビル4F TEL(03)5244-5132 FAX(03)6273-7715

九州事務所 〒810-0802 (株)よかネット：福岡市博多区中洲中島町3-8 福岡パールビル8F TEL(092)283-2121 FAX(092)283-2128

ホーチミン 0908.CJ Building.2-4-6 Le Thanh Ton street. District 1 HCMC.Vietnam TEL+84(028)6255-6732 (ベトナム)



この用紙は「びわ湖の森を元気にする」  
Kikitoペーパーを使用しています。